

港湾・海運業界における
持続可能性、多様性と調和

祝 横浜開港160周年

主会場: パシフィコ横浜

主催: 横浜川崎国際港湾株式会社 (YKIP)



【プロローグ】 Yokohama Maritime Forum (YMF)2019 について

横浜港開港 160 周年を記念し、10 月 21 日から 25 日までの一週間、Yokohama Maritime Forum 2019 (YMF2019: 10 月 23 日と 24 日、参加費有料)を中心に、IAPH や SEA/LNG 等の関係団体と共同で様々な会合(関係者のみ参加)が開催されます。

このフォーラムでは「港湾・海運業界における持続可能性、多様性と調和」をテーマとしており、一週間を通じてすべてのイベントはこのテーマに深く関係し、業界共通の社会的責任を含めて、多岐に亘る課題について議論します。特に、YMF2019 に関しては、横浜港の 160 年の歩みを一つの集大成として、継承すべきものは継承し、イノベーションすべきものを創造していく、所謂「温故知新」の願いを込めて、YKIP の主催により開催するものです。

2020 年 1 月 1 日に発効する船舶用燃料の IMO 硫黄排出規制だけではなく、2050 年に GHG の排出を 50%削減する目標も着実に迫っている中、関係業界にとって持続可能なビジネスモデルの創出と環境対策が両輪となり、技術革新もさることながら、様々なチャレンジにどう立ち向かうのか、賢者を YMF2019 に集結させて議論してもらいます。また、業界では多様性への対応はかねてより課題となっていますが、残念ながら日本は明らかに世界に後れを取っています。特に 21 世紀における多様性には複雑な交差性も重なり、日本は世界に追いつき追い越せるのか、少し大げさかもしれませんが、これからの将来に向けた試金石として YMF2019 が出発点になることが期待されます。

更に、大気汚染のみならず海洋の生態系を維持するためには、船舶による海洋汚染を防止することはもとより、陸上からの廃棄物や汚染物質の流出防止や回収は、世界人類すべての共同責任ですが、特に海洋の恩恵を受けている海運や港はより積極的に海洋汚染防止に取り組む必要があります。このためには、海運と港湾の協調と調和、環境関連技術革新と採算性の調和、更に多様性対策も調和されなければなりません。それらの調和が達成した時にこそ、事業の持続可能性が初めて担保されます。

YMF2019 では、上記のような課題に焦点を当てて、議論を深めていきたいと思っています。今回は世界の海運、港湾、その他業界団体、学術組織から錚々たる講演者にご参加を頂きます。業界団体では、ICS、BIMCO、INTERTANKO、INTERCARGO、CLIA、IAPH から事務局長や CEO などトップレベルの方々が一堂に会する、世界的にみてもハイレベルなフォーラムです。



YMF2019 の開催で、世界を横浜に招き入れ、横浜から世界に向けて有意なメッセージを送る発信基地とする、第一歩にしたいと思っています。また、この機に横浜に集結する世界各国の方々に横浜の魅力に触れてもらい、横浜の真の友人になってもらいたいと願っています。更に、YMF2019 のような取組の一つずつを丁寧に積み重ねてゆき、横浜港の未来につなげて行きたいと願っています。

YMF2019 では英語を原則公式言語とし、日英同時通訳付き。会議期間中、コーヒーブレイクやランチ、カクテルパーティ、開港 160 周年記念晩餐会を通して、来場者に様々なネットワーキングの機会を提供することで、広範な参加者の双方向的な交流につながることを期待しています。YMF 2019 は非営利的カンファレンスであるため、参加料とスポンサーからのご支援を頂くことで、費用の一部を補填する計画です。

錦秋の港町、横浜で皆さんの御光臨をお待ち申し上げます。

主催： **横浜川崎国際港湾株式会社**
YOKOHAMA KAWASAKI INTERNATIONAL PORT CORPORATION

2019年10月21日(月曜日)

フォーラム 前々日

他団体との共催によるグループミーティング(対象者のみ)

会場: 横浜川崎国際港湾株式会社 (YKIP)

09:00-17:00	国際港湾協会(IAPH) クリーンマリンフューエル (CMF)分科会グループミーティング
09:00-17:00	国際港湾協会(IAPH) 環境船舶指数 (ESI) 分科会グループミーティング

2019年10月22日(祝)

フォーラム 前日

他団体との共催によるグループミーティング(対象者のみ)

会場: 横浜川崎国際港湾株式会社 (YKIP)

09:00-11:30	国際港湾協会(IAPH) クリーンマリンフューエル (CMF)分科会グループミーティング
09:00-17:00	国際港湾協会(IAPH) 環境船舶指数 (ESI) 分科会グループミーティング
13:00-17:00	SEA/LNG 理事会

2019年10月23日(水曜日)

フォーラム 1日目

フォーラム会場: パシフィコ横浜 メインホール

08:00-09:00 **コンチネンタル・ブレックファースト/ネットワーキングコーヒータイム**
会場: メインホール前の展示エリア

08:00	二階ロビーにて受付開始
09:00-09:20	開会の辞～横浜港開港160周年を祝して～ <ul style="list-style-type: none"> ➢ 国際海事機関 事務局長 リム・キータック氏 ➢ 横浜市 副市長 平原敏英氏
09:20-10:00	基調講演: 港湾と海運業界における新しい時代の幕開け <ul style="list-style-type: none"> ➢ クラークソン リサーチ社 社長 マーティン・ストップフォード博士(40分)

10:00-10:30 **ネットワーキングコーヒータイム**
会場: メインホール前の展示エリア

10:30-12:10	<p>セッション1: 海運業界の挑戦について</p> <p>海運業界は様々な挑戦に直面する未曾有の時代を迎えています。脱炭素化を始めとする環境対策が急務となる中、持続可能なビジネスモデルの構築も必要不可欠です。技術革新によって削減していかなければならないのは、温室効果ガスの排出とコストの両面です。難易度の高い目標をどうやって達成していくのか、その目標の先にある更なる挑戦とは何か、等について、海運業界の雄たちの言葉に耳を傾けましょう。</p> <p>モデレーター: トーマス ミラー ホールディングス 会長 ヒューゴ・ウィン・ウィリアムズ氏</p> <p>パネリスト:</p> <ul style="list-style-type: none"> ➢ クラークソン リサーチ社 社長 マーティン・ストップフォード博士 ➢ オーシャンネットワークエクスプレス 最高経営責任者 ジェレミー・ニクソン氏 ➢ A.P. モラー マースク アジアパシフィック地域統括 上級副社長 ロバート・ファン・トロイヘン氏
-------------	---

	<ul style="list-style-type: none"> ➤ カーニバル コーポレーション 海務担当上級副社長 トム・ストラング氏 ➤ 日本船主協会 会長 内藤 忠顕氏
--	--

12:10-13:30	<p>ご昼食 (ビュッフェスタイル) 会場: パシフィコ横浜3階</p>
-------------	---

13:30-13:50	<p>基調講演</p> <ul style="list-style-type: none"> ➤ 女性国際海運貿易協会(WISTA) 会長 デスピナ・セオドシオ氏 (20分)
13:50-15:00	<p>セッション2: 港湾・海運業界における女性進出の推進</p> <p>2019年「世界海事の日」のテーマは“海運業界における女性進出の推進”です。多様性への尊重については何十年にも渡り議論されてきましたが、21世紀になった今日もまだ課題のままです。やがてこの課題がクリアされ、海運業界において多様性が更なる調和をもたらしてくれることを期待しています。</p> <p>モデレーター: 国際タンカー船主協会(INTERTANKO) 常務理事 キャサリーナ・スタンゼル氏</p> <p>パネリスト:</p> <ul style="list-style-type: none"> ➤ 女性国際海運貿易協会(WISTA) 会長 デスピナ・セオドシオ氏 ➤ 国際海運会議所(ICS) 事務局長 ガイ・プラッテン氏 ➤ 国土交通省 関東運輸局長 吉田 晶子氏 ➤ 横浜川崎国際港湾株式会社 執行役員兼営業部長 熊 桜氏

15:00-15:30	<p>ネットワーキングコーヒータイム 会場: メインホール前の展示エリア</p>
-------------	---

15:30-15:50	特別講演: 温室効果ガスとIMO環境規制について
-------------	---------------------------------

	<p>➤ 国際海事機関(IMO)、海洋環境保護委員会(MEPC) 議長 斎藤 英明氏</p>
15:50-17:00	<p>セッション3: 業界団体の観点からIMO環境規制について考える</p> <p>海運業界における絶大な発信力と影響力を誇る主力業界団体は、これまで様々な問題提起と問題解決に挑んできました。例えば、船舶燃料に含む硫黄分排出への規制問題、2020年以降の排出ガスの脱炭素化問題、エネルギー効率設計指標(EEDI)やエネルギー効率管理計画書(SEEMP)並びに環境船舶指数(ESI)等を含めた技術革新、それから、ビッグデータの解析応用における有効性と標準化問題などです。それらの問題提起はどれも業界共通の社会的責任、事業の持続可能性と多様性を環境規制の側面に映し出し、深く考えさせられるものばかりです。</p> <p>モデレーター: 国際海運会議所(ICS) 事務局長 ガイ・プラッテン氏</p> <p>パネリスト:</p> <ul style="list-style-type: none"> ➤ ボルチック国際海運協議会(BIMCO) 最高経営責任者兼事務局長 アンガス・R・フルー氏 ➤ 国際タンカー船主協会(INTERTANKO) 常務理事 キャサリーナ・スタンゼル氏 ➤ 国際客船協会(CLIA) 事務局長 トム・ボードレー氏 ➤ 国際港湾協会(IAPH) 政策戦略担当常務理事 パトリック・ウアンフォーヘン氏

18:00-20:30 「講演者の集い」晚餐会(招待者のみ)
会場: ヨコハマグランドインターコンチネンタル3階

10月24日(木曜日)
フォーラム 2日目

フォーラム会場: パシフィコ横浜アネックス 2階

08:00-09:00 コンチネンタル・ブレックファースト/ネットワーキングコーヒータイム
会場: パシフィコ横浜アネックス2階 展示エリア

08:00	パシフィコ横浜アネックス2階にて受付開始
09:00-09:05	総括と本日のオリエンテーション
09:05-09:45	<p>特別講演: デジタルエコシステムー港湾、海運並びにサプライチェーン全体における新しい秩序の創出に向けて</p> <p>➤ <i>PSAインターナショナル グループ最高経営責任者 タン・チョン・メン氏</i></p> <p>港湾でのデジタルライゼーションと技術革新は、現在嘗てない勢いで産業全体に波及しようとしている。全ての産業にとってより良いソリューションを作ることが、PSA技術陣の野心でもある。彼らの差別化戦略とは何か、船社及びサプライチェーン全体のニーズにも応えられる港湾の技術革新の中身とは何か、グループCEOであるタンチョンメン氏がPSAの21世紀に向けたビジョンを披瀝する。</p>
09:50-11:30	<p>セッション4: 港湾の視点から</p> <p>港湾は海運業界を支える大事なインフラとして、業界全体が直面する挑戦の全てに共通の社会的責任を負います。港湾は海運と陸運を、そして地域社会と世界を繋ぐ要であり、今や業界全体と共に、温室効果ガス排出の削減に向けて積極的に取り組んでいます。</p> <p>モデレーター: <i>国際港湾協会(IAPH) 政策戦略担当常務理事 パトリック・ウアンフォーヘン氏</i></p> <p>パネリスト:</p> <ul style="list-style-type: none"> ➤ <i>横浜川崎国際港湾株式会社 代表取締役社長 諸岡正道氏</i> ➤ <i>バンクーバー港港湾局 副社長 ダンカン ウィルソン氏</i> ➤ <i>アムステルダム港港湾局 政策顧問 兼 IAPH CMF 部会会長 ピーター・アルケマ氏</i> ➤ <i>ニューヨーク・ニュージャージー港湾公社 港湾局長 サム・ルーダ氏</i>

11:30-13:00 ご昼食 (ビュッフェスタイル)

会場: パシフィコ横浜アネックス2階

13:00-14:40	<p>セッション5: 海洋環境とそのガバナンス</p> <p>大気汚染のみならず海洋の生態系を維持するためには、船舶による海洋汚染を防止することはもとより、陸上からの廃棄物や汚染物質の流出防止や回収は、世界人類すべての共同責任ですが、特に海洋の恩恵を受けている海運や港はより積極的に海洋汚染防止に取り組む必要があります。このためには、海運と港湾の協調と調和、環境関連技術革新と採算性の調和、更に多様性対策も調和されなければなりません。それらの調和が達成した時にこそ、事業の持続可能性が初めて担保されます。海洋環境とそのガバナンスは待ったなしの課題です。</p> <p>モデレーター: 世界海洋評議会 (WOC) 会長 ポール・ホーサス氏</p> <p>パネリスト:</p> <ul style="list-style-type: none"> ➢ 国際タンカー船主協会(INTERTANKO) 常務理事 キャサリーナ・スタンゼル氏 ➢ 九州大学教授 磯辺篤彦氏 ➢ 早稲田大学 法学学術院教授 河野真理子氏 ➢ 日本郵船株式会社 常務経営委員 小山智之氏 ➢ ソシエテ・ジェネラル・コーポレート投資銀行 グローバル統括 ポール・テイラー氏
14:40-15:10	<p>ネットワーキングコーヒータイム</p> <p>会場: パシフィコ横浜アネックス2階 展示エリア</p>
15:10-15:30	<p>特別講演: 太平洋航路におけるジレンマ~2020年以降競争優位となる船舶燃料は何か~</p> <p>このIMO2020のSO_x規制に適応する代替燃料の投資回収ケーススタディーでは、北米航路に投入される14,000TEU級コンテナ船と8,000台積み自動車専用船をモデルとして、2ストロークエンジンを前提に、LNG燃料船、スクラバー搭載重油炊き船、適合油利用の船舶それぞれの経済性を分析するものです。</p>

	<p>➤ ワルチラ(Wartsila) アメリカ 海務担当副社長、ジョン・F・ハトリー氏</p>
15:30-17:10	<p>セッション6: 船舶燃料としてのLNG及びそのバンカリングについて</p> <p>既に数多くのパイオニア企業が舵を切り出したように、我々が今すぐにでも着手できる環境対策は、LNGを船舶燃料として推進することです。LNGは大気汚染の弊害を一掃するだけでなく、温室効果ガスの削減にもより効果的であり、経済性評価においても持続可能です。</p> <p>モデレーター: シーエルエヌジー(SEA/LNG)協会 会長 ピーター・ケラー氏</p> <p>パネリスト:</p> <ul style="list-style-type: none"> ➤ カーニバル コーポレーション 海務担当上級副社長 トム・ストラング氏 ➤ 株式会社商船三井 代表取締役副社長執行役員 橋本剛氏 ➤ シンガポール海事港湾庁(MPA) 最高責任者補佐 M・サガール船長 ➤ ジャパン マリンユナイテッド株式会社 取締役専務執行役員 佐々木 高幸氏 ➤ 日本郵船欧州統轄会社 最高経営責任者 スヴェイン・スタウムラー氏 ➤ ワルチラ(Wartsila) アメリカ 海務担当副社長、ジョン・F・ハトリー氏

18:30-20:30 **開港160周年記念晩餐会「横浜の夕べ」**
会場: 横浜ロイヤルパークホテル3階 鳳翔の間

2019年10月25日(金曜日)

フォーラム終了後

他団体との共催によるグループミーティング(対象者のみ)

会場: パシフィコ横浜4階 418 会議室

09:00-17:00	SEA/LNG 年次総会
-------------	--------------

* イベントの詳細(講演者の追加、時間と場所などの変更)は、随時アップデートしますので、最新情報は公式サイトをご参照願います。

プラチナスポンサー



ゴールドスポンサー



シルバースポンサー



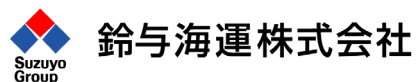
横浜港運協会



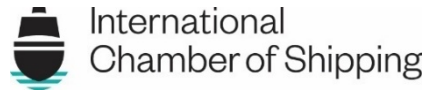
ブロンズ



横浜港振興協会
POP YOKOHAMA



協力企業・団体



後援



メディアパートナー

